

まどガラスと魚  
(ハートメーターを生かした指導)

学校名 (福山市立野々浜小学校)

- 1 学 年 第3学年
- 2 主題名 隠さず正直に 【1-(4) 正直・誠実】
- 3 ねらい おじさんにボールを返してもらった時の進一郎の気持ちを考えることを通して、自身に正直であることよさに気づき、過ちは素直に改め、正直に明るい心で元気よく生活しようとする態度を育てる。
- 4 資料名 まどガラスと魚 (出典：3年生のどうとく 文溪堂)
- 5 授業の展開例

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	留意点
導 入	1 外で遊んだ経験を想起する。	○みんなは外でどんな遊びをしますか。 ・サッカー ・おにごっこ	○日常場面を想起させることで、資料につなげる。
展 開	2 資料「まどガラスと魚」を読み、進一郎の気持ちを考える。	○進一郎は、どんな気持ちで遠回りをして何度も窓を見に行ったのでしょうか。 ・怒られたくないな。 ・ぼくだとばれたらどうしよう。 ・やっぱり悪いことしちゃったな。 ・この家の人はおこっているだろうな。 ・正直にあやまらなくちゃ。  ○進一郎は、お姉さんとお母さんの様子を見てどんなことを考えたでしょう。 ・自分のねこのことなのに魚まで持って来てあやまるなんてすごいな。 ・お姉さんは勇気があるな。 ・ちゃんと謝れば許してくれるかな。 ・ぼくも正直に謝ろうかな。	○進一郎の正直になれない後ろめたい気持ちをつかませる。  ○正直に言うことで、お互いよい気持ちになることをつかませる。 ◎ハートメーターを使い、ぼくの心の中を視覚的に表し、正直に言うすばらしさと、正直に言えない心の弱さを考えやすくさせる。
	3 おじさんにボールを返してもらったときの進一郎の気持ちを考える。	◎おじさんにボールを返してもらったとき、進一郎はどんなことを考えていたでしょう。 (A：おじさんに対する思い) ・おじさん、ごめんなさい。 ・おじさんありがとう。許してくれて。 (B：正直に言えたよさ) ・ドキドキしたけど、正直に言ってよかったな。 ・こんなことなら早く言えばよかった。 ・すっきりして、すがすがしい気持ちになった。 ・後ろめたさがなくなった。	◎ワークシートに書かせ、進一郎の気持ちをじっくり考えさせる。 ○座席表で見取り、意図的指名をする。  ○正直に言う自分自身がすがすがしくなり、後ろめたさがなくなることにつなげる。

	<p>4 自分の生活を振り返り、交流する。</p>	<p>[ 補助発問 ]</p> <p>●正直に言えた進一郎は、言えなかったときの自分と比べてどう思っているでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正直に言えた自分でよかったな。</li> <li>・気持ちいいな。</li> <li>・前の自分より好きだな。</li> <li>・すぐにあやまれる自分になりたいな。</li> <li>・正直に言えるってかっこいいな。</li> </ul> <p>○正直に言ってよかったな、ということはありませんか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お皿を割ったけど、正直に言ったらあまりおこられなかったので、正直に言ってよかったと思った。</li> <li>・忘れ物をしたとき、正直に言ったらすっきりした。</li> <li>・友達のペンを間違えて持って帰ってしまったけど、次の日、正直に謝ると気にかかっていたことが心から晴れて、明るい心になれた。</li> </ul>	<p>★自分自身に正直であることよさに気付くことができたか。</p> <p>○「黙っていれば誰にもわからないのではないか」と、問うことで、隠さず正直に言うことの大切さについて考えを深めさせる。</p>
<p>終末</p>	<p>5 ことわざを聞く。</p> <p>6 学習の気付きを書く。</p>	<p>○「正直は一生の宝」を紹介する。</p>	<p>○ワークシートを活用し、本時の道徳的価値について自分の考えをまとめさせる。</p>

# 活用に生かすための実践報告

福山市立大門中学校区

## 1 地域や児童生徒の実態

本中学校区（中学校1校，小学校3校）の児童生徒は，明るく行動的であるが，相手を思いやり，自己の判断をもとに行動することができにくい。また，自己肯定感が低く，自他の個性を尊重し共に高まろうという意識も十分ではない。授業では，自分の思いを自分の言葉で表現することを苦手としている児童生徒がいる。

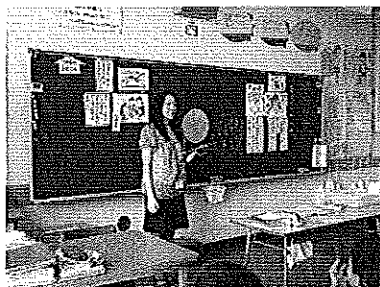
これらの課題を克服するため，中学校区で共通の道徳の内容項目を設定し，授業研究や教材研究に2年間取り組んできた。

## 2 指導課程の工夫

本時のねらいは，正直に行動することのすがすがしさに共感させ，誠実な生き方をしようとする気持ちを持たせることである。資料前半でのまどガラスを割ったことを黙っている主人公の気持ちと，資料後半での正直に言った気持ちを対比できる資料である。

そこで，本時では，自分の思いを表現しやすくするため，円のハートメーターを使って，そのときの気持ちや思いの変容を考えさせた。

その結果，児童は，自分の思いをピンクとブルーの量で表し，その理由を話すことができた。



## 3 発問の工夫

中心発問では，おじさんにボールを返してもらったときの進一郎の気持ちを考えさせた。正直に謝ってスッキリした気持ちと，それまでの気持ちを比較させる補助発問をした。その際にもハートメーターを使い，それをもとにどのような心情の変化があったのかを全体で考え合う場を作ることができた。また，二つの思いを比

較させることにより，正直に言ったよさの理由を多様に出し合うことができた。

さらに，「黙っていればだれも分からないのでは」とゆさぶった。すると，しばらく立ち止まり，「やっぱり自分自身がすっきりしない」「ずっといやな気持ちが残る」など，明るく生活するよさに改めて気付かせてくれた。

## 4 児童生徒の反応

- ・うそはばれなくてもやっぱり不安いっぱいです。正直に言うのは勇気があるけれど，ごまかしている自分はいやです。
- ・やっぱりあやまらないと，気がすまなくなります。罪が軽くなる感じがします。
- ・正直に言うと心がほっとして，これからも気を付けようと思いました。正直になると，次からは気を付けようと自分で決心ができていいなと思いました。

## 5 成果と課題

### 【成果】

推進地域で教材研究や授業参観・協議を行ったことにより，発問・教材・教具の工夫ができてきた。それらにより，自分の思いを自分の言葉で語る児童生徒が育ってきた。また，発達の段階を踏まえた授業の組み立てを行うなど，9年間を見通した上での教材解釈ができるようになってきた。

本校で行っている道徳の時間を要として各教科・領域，日常の活動等を関連させた総合単元的な道徳学習により，児童の道徳性を育むことができた。

### 【課題】

今後も推進地域合同の研究の継続に向けた推進組織を確立し，研修内容の充実を図る。